2020年2月作成
2022年1月改訂

有害事象発生時　対応フローチャート

点滴の中断

↓

患者のそばを離れずに応援を呼ぶ

↓

ルート内に残っている抗がん剤を
患者の体内に入れないようできるだけ
シリンジで吸引する（目安は3～5ml）

※曝露対策をとって実施
※患者に一番近い側管から実施

↓

レジメン中の生食、または、ソルアセトFを開始する

※新しい輸液セットをつけて、
患者に一番近い側管から投与する

↓

【医師へ報告】

緊急を要す場合は、主治医への連絡とともにドクターハリーをする
（「3333」または「101」で直接コール）

・状態報告
・薬液開始の何分後に症状が出現したか
・薬剤が何ml投与されたのか

救急カート
酸素などの準備

アレルギーと判断された場合

使用する可能性のある薬剤を準備する
＊医師の指示により投与する

・ポララミン注5mg、サクシゾン500～1000mg
・アドレナリン注0.1%0.2～0.5mg（0.2ml～0.5ml）

※詳細は、がん化学療法マニュアル参照
「5．がん化学療法薬投与時の輸液管理と観察：
Ⅴ.救急処置の具体例」

【記録】

・対象の抗がん剤名
・投与量
・発生時の状況や対応など

≪投与を中断した抗がん剤の取り扱い≫

主治医に継続投与か破棄か確認する

【破棄の場合】
①ナイロン袋に密閉
②薬剤部に連絡後、搬送用のプラスチックケースに入れて薬剤部へ返却